　　　　　　　　　　　　　　財政学II

　　　　　　　　　　　　　　練習問題

問1：個人は1単位の時間を有し、これを余暇か労働Ｌにあてる。よって、Ｌ単位（時間）働いたときの余暇消費は１－Ｌである。個人の効用関数を

（1.1）　

予算制約式はC=wLで与えられているとする。

1. 労働供給関数＝L(w, I)を求めよ。
2. このとき、賃金に対して税率ｔで課税を行う（よって課税後賃金率はw(1-t)）ならば、労働供給はどのように変化するか計算せよ。

問2：個人は1単位の時間を有し、これを余暇か労働Ｌにあてる。よって、Ｌ単位（時間）働いたときの余暇消費は１－Ｌである。個人の効用関数を

（2.1）　　　　　　(δ＞0)

予算制約式はC=wLで与えられているとする。

（1）労働供給関数＝L(w)を求めよ。

（2） 賃金に対して税率ｔで課税を行う（よって課税後賃金率はw(1-t)）ならば、労働供給はどのように変化するか計算せよ。

問3：2期間（t=1､t=2）モデルを想定する。代表的家計は第1期に所得を稼得するものと仮定する。第2期は引退している。今期の消費は、来期の消費は、市場利子率はｒで与えられているとしよう。この個人の生涯効用関数は

　(3.1)　　　　　（0<β<1）

に等しい。

（1）貯蓄関数を求めよ

（2）利子所得に対して税率ｔで課税が行われるとする。よって課税後の利子率はr(1-t)に等しい。この利子所得課税が貯蓄に及ぼす効果について説明せよ。

問4：2期間（t=1､t=2）モデルを想定する。代表的家計は第1期に所得を稼得するものと仮定する。第2期は引退している。今期の消費は、来期の消費は、市場利子率はｒで与えられているとしよう。この個人の生涯効用関数は

　(4.1)　　　　　　　　(δ＞0)

に等しい

（1）貯蓄関数を求めよ

（2）利子所得に対して税率ｔで課税が行われるとする。よって課税後の利子率はr(1-t)に等しい。この利子所得課税が貯蓄に及ぼす効果について説明せよ。

問5　完全競争的な労働市場について考える。この労働市場の需要関数と供給関数は下記のように与えられているとしよう。

(5.1)　；　＝企業の労働コスト

　　(5.2)　 ；　＝労働者の手取り賃金

[1] 労働一単位あたりに対する社会保険料Ｔが雇用主負担であったとする。よって、企業コストは＝＋Ｔ。このとき、労働市場における均衡雇用量、労働コスト、労働者の手取りの賃金率を計算せよ。

[2] 社会保険料Ｔが全額、労働者が負担することになった。労働者の手取りの賃金は＝―Ｔ。このとき、労働市場における均衡雇用量、労働コスト、労働者の手取りの賃金率を計算せよ。